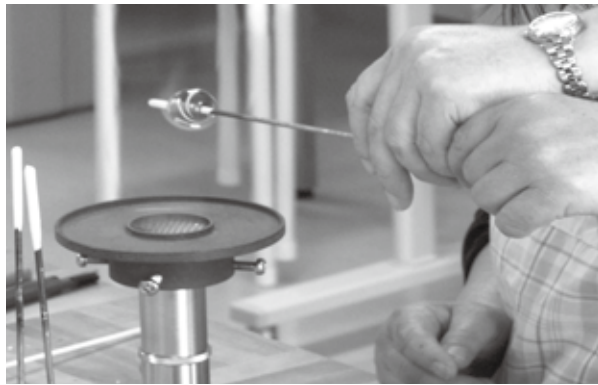


リサイクルを身近にとんぼ玉教室を開催

4月19日、丹波市クリーンセンターで、リサイクルに関心を持ってもらおうと平成30年度1回目のとんぼ玉教室を開催しました。参加者は講師の指導の下、ガラスをバーナーで溶かし、模様をつけてオリジナルのとんぼ玉づくりを楽しみました。出来上がったとんぼ玉はストラップなどに加工しました。丹波市クリーンセンターでは今後も様々な教室を開催します。



バーナーでガラスを溶かす作業

木の温もりや創作の楽しさを味わう ゴールデンウィークフェスタ開催

4月28日から5月6日まで、県立丹波年輪の里で木工作家の展示販売や木工教室、フリーマーケットなどさまざまなイベントがあり、約8,200人が来場しました。

14人の木工作家が丹精込めて製作した木の椅子を展示する「座っ展 2018」では、実際に作品に座ることができ、来場者たちは背もたれの感触や木のぬくもりを楽しみました。



木の椅子の座り心地をたのしむ子ども

丹波市消防団初出式 地域の防災力が結集！



地域防災への決意を新たにした丹波市消防団

平成30年度丹波市消防団初出式が4月15日に行われ、約340人の消防団員が氷上住民センターに結集しました。

荻野克己団長は「団員が同じ志をもって消防活動にまい進し、地域防災においてさらなる貢献をしていきたい」と訓示し、地域防災の要として消防団員が一致団結し、地域の安全を守る覚悟を胸に刻みました。

家族で楽しむ読み聞かせ 大きなおはなし会



パネルシアターを行うボランティア

4月22日、市内で活動する読み聞かせボランティアグループが春日住民センターに集まり、「大きなおはなし会」を行いました。

大型絵本の読み聞かせやストーリーテリング、紙芝居などを披露し、パネルを使っておはなしをする「パネルシアター」では、音楽に合わせておはなしが行われ、たくさんの来場者が物語を楽しみました。

ちーたんの館にVR装置を導入 恐竜の世界を3Dで体感！

丹波竜化石工房「ちーたんの館」で、VR（バーチャルリアリティ）装置が導入され、丹波竜などが生息していた約1億1000万年前の世界を3次元で体験できるようになりました。大人用2台、子ども用1台の3台です。

VRゴーグルを装着すると、恐竜が暮らす仮想空間が360度に広がる迫力のバーチャル映像を見ることができます。また、大人用（中学生以上）ではコントローラーを使い、丹波竜の全身骨格を組み立てるパズルにも挑戦できます。子ども用は、目への影響からコントローラーを使った組み立てパズルはできませんが、迫力ある映像体験が楽しめます。体験時間は4分30秒。なお、VR体験は無料ですが、入館料が必要です。

子どもたちは、「動いている丹波竜に触れそうだった」「恐竜を横から見るのができて面白かった」といろいろな方向を向いてVR体験を楽しんでいました。



VRゴーグルで恐竜が暮らす世界を体感する子ども



ゴーグル内に広がる迫力のバーチャル映像

子どもたちの健全育成を願って ながしん若鮎募金を寄付



目録を手渡す中兵庫信用金庫の足立厚郎理事長（写真右）

中兵庫信用金庫から、将来、地域社会を担っていく子どもたちの健全育成を願って「ながしん若鮎募金」の寄付がありました。

「成長した鮎が生まれた川に戻ってくるように、地元で生まれ育った子どもたちが成長して故郷に帰ってきてほしい」という願いが込められたもので、市長は「青少年の健全育成に役立てたい」と応えました。

LINEアプリを活用 市民の疑問に答えます

無料通信アプリ「LINE」で、市民からの問い合わせに人工知能（AI）が自動対応するシステム「丹波市 AI サービス」の実証実験を行うことが決定し、市はLINE（株）、国立情報学研究所らと協定を結びました。実証実験は夏ごろ開始予定です。ぜひ「丹波市 AI サービス」のLINEアカウントを友だち登録していただき、サービスをお試しください。



協定式に出席する谷口市長（写真右端）